

# 待 陵 通 信 第10号

平成 23 年 12 月 7 日  
(敬称略)

①**訃報** 平成 23 年 11 月 7 日以降に判明した方々 謹んでご冥福をお祈り致します。

|        |       |                  |         |
|--------|-------|------------------|---------|
| 7 文甲   | 鈴木 健彌 | 平成 23 年 1 月 29 日 | 大阪市東住吉区 |
| 21 文乙  | 小林 亙  | 11 月 14 日        | 岡山市東区   |
| 22 理 4 | 中島 隆雄 | 10 月 5 日         | 三鷹市     |

②**住居変更**

届け出なし

③**午餐会・懇話会**

\* 第 487 回午餐会 23 年 11 月 7 日 (月) 正午～14 時 30 分

於 中央電気倶楽部 317 号室

講師 妙心寺塔頭 退蔵院 副住職 松山 大耕 師

テーマ:「よく生きる」

出席者 31 名

\* 懇話会・阪南支部協同企画・住吉大社ご鎮座 1800 年記念参拝 23 年 11 月 10 日 (木)

別掲・阪南支部報告参照

④**寮歌祭・記念祭**

\* 大阪高等学校第 90 回記念祭 23 年 11 月 12 日 (土) 12 時～17 時

於 大阪大学豊中キャンパス理学部 501 教室

記念講演 元阪大総長 金森順次郎「独創的な発想の源泉」

大高の森で全寮歌合唱後 学生交流棟レストラン「宙」で懇親会と記念演奏

浪高を代表して川島会長が出席

⑤**支部だより**

\* **阪神支部**

・ 日帰りバスツアー 23 年 11 月 4 日 (金) 9 時～18 時

JR 芦屋・阪急西宮→近江八幡 ティファニー (近江牛の会食) → MIHO MUSEUM 見学  
→陶芸の森 陶芸館見学→西宮・芦屋帰着

参加者 12 文甲大曲直介・14 文乙奥野巖・15 理甲三木卓一・同夫人・同令嬢・

17 文 2 螺良英郎・同令嬢・17 理甲 1 栗野正之・20 文乙池口金太郎・

21 文甲 2 露口佳彦・同夫人・21 文乙文箭安雄・同夫人・21 理 2 島隆夫・

21 理 2 丹波元吉

以上 15 名

\* **阪南支部**

・ 住吉大社ご鎮座 1800 年記念参拝 23 年 11 月 10 日 (木) 13 時 30 分～16 時

住吉大社小出権禰宜のご案内で、太鼓橋を起点に大灯籠・国宝の 4 棟参拝の後、境内の  
末社 (初辰さん等)・石舞台・文書館等を見学、東門で解散。池田屋で住之江味噌購入

参加者 3 理甲遺津賀美智子・6 文甲遺岩根正尚・15 理乙山本暉郎・17 理甲 1 栗野正之

18 理甲 4 高岸宗吾・悦子・19 理甲 2 村上義弘・20 文乙池口金太郎・20 理 1 大塚頼三

20 理 2 鶴岡誠・千代子・21 文乙村田正孝・貞子・21 理 2 武田晃世・セツ子

22 理 3 井上達明・事務局阪田訓子

以上 17 名

・ 懇親会 (二木会) 同日 16 時 45 分～19 時 於 堺東 嶋川 本店

参加者 上記津賀・岩根・高岸夫妻・村上・池口・大塚・鶴岡夫妻・武田夫妻に加え

懇親会のみ参加の 15 理乙竹村喬、住吉大社小出権禰宜の紹介者・江川兵次郎氏  
をゲストに迎え、計 13 名

#### ⑥同期同級交歓

\* 21 会 (21 回同期会) 旅行会 23 年 11 月 14 日 (月) ~ 16 日 (水)

西伊豆 2 泊 3 日の旅

1 日目 (14 日) 静岡駅で東京組・大阪組合流 清水市内で昼食→清水港 (駿河湾フェ  
リー) →土肥港→堂ヶ島温泉: 堂ヶ島ニュー銀水泊

2 日目 (15 日) ホテル→らの里→下田 湾内めぐり遊覧船・昼食・了仙寺→石廊崎  
→堂ヶ島温泉ニュー銀水連泊

3 日目 (16 日) 堂ヶ島・洞窟めぐり遊覧→天城峠→浄蓮の瀧→修善寺→昼食→韮山反  
射炉→蛭ヶ小屋 (源頼朝流刑地) →三島駅で解散

参加者 文甲 1 穎川勉二・同章子・黒田登代・真銅孝三・同邦子・東良敬子・徳久俊彦

文甲 2 筏喜久子・田中昂・同良子・渡辺祐吉・同節

文 乙 文箭安雄・同恵子・渡辺榮衛

理 1 生島幹三・同まり子・山田茂樹・同宣子

理 2 栗本浩 (米寿)・佐藤孝子・島隆夫・田中義一

理 3 後藤業明・同千代子

理 4 川島康生・同操子・中原充雄・西村順三

以上 会員 16 名 夫人 13 名 計 29 名

#### ⑦運動部・同好会だより

\* 待兼山俳句会 (第 501 回) 23 年 10 月 30 日 (日)

吟行地 兵庫県平福 (宿場町) 西はりま天文台公園

句会場 西はりま天文台公園スタディールーム

出席者 長山あや・上田元彦・佐伯箕川・佐伯道子・鈴木輝子・鈴木敏夫・瀬戸幹三・  
鶴岡言成・寺岡翠・中村和江・根来眞知子・東中乱・東野太美子・山戸暁子・  
上野鮎太 (特別参加) 以上 15 名

|        |                                             |     |
|--------|---------------------------------------------|-----|
| 選者吟    | 鳶鳴いて佐用の山霧下りて来る                              | あや  |
|        | 身にしむやなゆたの宇宙に包まるる                            |     |
|        | 星を語る大きな数字爽やかに                               |     |
| 林 直入特選 | 水害の跡も見せざる秋桜                                 | 言成  |
|        | 宿場町石落ひつそりと雨に咲く                              | 太美子 |
|        | 秋の味揃ふ旅籠の昼餉かな                                | 言成  |
|        | 廃れたる酒蔵覆ふ蔦紅葉                                 | 乱   |
|        | 秋霖や旧道に立つ古ポスト                                | 幹三  |
|        | 柿たわわ山懐の醤油蔵                                  | 翠   |
|        | 川も人もおだやかな街秋日和                               | 眞知子 |
|        | 山茶花と椿の咲ける刑場跡                                | 暁子  |
|        | 柿の木の本 <sup>うだつ</sup> 一本ありて無人駅               | 幹三  |
| 長山あや特選 | 露けしや <sup>うだつ</sup> 残 <sup>うだつ</sup> りて人住まず | 太美子 |
|        | 生も死もある星々や秋夜空                                | 眞知子 |
|        | 朴落葉踏みて無限の星思ふ                                | 敏夫  |
|        | 端然と家並うつす秋の川                                 | 道子  |
|        | 時雨初む宿場に辿る昔かな                                | 言誠  |

\* 待兼山俳句会 (第 502 回) 23 年 10 月 31 日 (月)

吟行地 兵庫県平福 (宿場町) 西はりま天文台公園

句会場 西はりま天文台公園食堂 カノープス

出席者 前回と同じ 15 名

|        |                                                                                                                              |                                               |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 選者吟    | 初霜の芝生のきらを踏み登る<br>なゆたの星閉ざす闇より虫の声<br>雲海の風にほどけて地に還る                                                                             | あや                                            |
| 林 直入特選 | 熊よけの鈴も用意の天文台<br>雲海に飛び石の如山残し<br>雲海の底より朝の時報湧く<br>一筋の朝日に小鳥鳴き初むる<br>川霧に消え残る星見失ふ<br>霧の中シリウスひとつ消え残る<br>秋雨の刑場跡の六地藏<br>雲海の風にほどけて地に還る | 眞知子<br>太美子<br>敏夫<br>敏夫<br>翠<br>輝子<br>鮎太<br>あや |
| 長山あや特選 | 露のみな輝き初むる日の出かな<br>雲海の底より朝の時報湧く<br>霧晴れて白亜の天文台光る<br>宇宙まで広がる我が世秋の空<br>虫の音か鳥か天地のつぶやける<br>秋晴るる一夜の雨のいと惜しき                          | 眞知子<br>敏夫<br>暁子<br>言誠<br>翠<br>和江              |

★お知らせ 旧制浪高同窓会のホームページ（前号既報）

<http://www.osaka-u.ac.jp/namikou/>

阪大工学部の松田崇弘先生のご指導を得、阪大本部の伊藤雄一先生のご協力を得て、同窓会のホームページが改良され、再構築されています。今一度ご覧ください。

★ご案内（前号既報）

大阪大学総合学術博物館第14回企画展（於 大阪大学総合博物館 待兼山修学館）

脳の中の「わたし」と情報の中の＜私＞  
五感を揺るがす魔訶不思議なメディア技術

23年10月25日～24年2月4日 開館時間：10時30分～17時 入場無料  
休館日：日・祝日及び年末年始（12月29日～1月3日）

★ご案内

船場大阪を語る会 第161回例会

日 時 23年12月17日（土）13時30分～16時

会 場 さいかくホール（府庁新別館北館1階）

アクセス 地下鉄（谷町線・中央線）「谷町4丁目駅」①出口を出て、地下道を北へ  
約100m、突き当たりを右（東）へ。奥のエレベータで地上へ。

講 師 大阪文化財研究所所長 長山雅一氏

演 題 近世の大阪・船場を土の下から見ると～遺跡発掘の現状と計画～

会 費 1,000円（入会金・年会費不要）

連絡先 船場大阪を語る会事務局 三島佑一（22理2）

〒550-0014 大阪市西区北堀江4-12-10-609

TEL・Fax. 06-6532-3094